



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2011.10.5 (No.2657) 週報 No.13

第2560地区ガバナー／石本 隆太郎
会 長／山田 富義
会長エレクト／杉山 幸英 (クラブ奉仕A)
副 会 長／丸山 行彦 (クラブ奉仕B)
幹 事／小出子恵出
S A A／伊藤 寛一
会 計／明田川賢一

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

- 本日の出席会員数:53名中33名
- 先々週出席率:84.62%

【ヴィジター】

三條南RCより
・鈴木園彦さん
三條RACより
・赤坂広太郎さん

【先週のメイクアップ】

- [9.29] 三條東RCへ
・渡辺勝利さん、中村和彦さん
・藤田紘一さん、熊倉昌平さん
・高橋尚樹さん、斎藤弘文さん (6名)
- [9.29] 燕RCへ
・加藤紋次郎さん
- [10.1] ライラ研修会(津南)へ
・成田秀雄さん
- [10.1] 青少年健全育成イベント
「デイキャンプ&ネイチャーゲーム体験」へ
・山田富義さん、松永一義さん
・熊倉博之さん、阿部吉弘さん
・渡辺良一さん、明田川賢一さん
・野崎喜一郎さん (7名)
- [10.3] 三條南RCへ
・石橋育於さん、菊池 涉さん
・小越憲泰さん、松永一義さん、
・熊倉博之さん、加藤紋次郎さん
・斎藤弘文さん (7名)



Reach Within to Embrace Humanity

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」
2011～2012年度国際ロータリーのテーマ

「道心坂のカワセミ」



荻根澤隆雄 会員より

会長挨拶

山田富義 会長



皆さん、こんにちは。挨拶申し上げます。
本日は三條南ロータリークラブ会長鈴木園彦様、三條ロータリークラブ幹事赤坂広太郎君ようこそおいでくださいました。
ごゆっくりお過ごし下さい。

先週は急な欠席で御迷惑と御心配をお掛けしました。
通常ですと本会議最終日は、議案に対する反対、賛成討論は1人か2人、多い時で3人で終り、採決をし午前中に閉会します。

議会について流れを少し説明させていただきます。
本会議が始まる一週間前に全議員が招集され、全員協議会が開催され、提出議案書が配布されます。

議会初日は議案の説明、2日目は提出議案について大綱質疑を経て常任委員会で審議され、本会議最終日には、常任委員長が常任委員会審議状況を報告後、反対・賛成討論が交わされた後、採決になります。

討論について説明します。『討論』とは議案に対して、議員各位に賛成・反対を呼びかける事です。

今回は、議第4号「三條市立学校設置条例の一部改正について」この案件は、旧三條高校跡地に第一中学校区を移す事です。

議第8号「三条市の一般会計補正予算について」は、7月29日の水害復旧費、小中一体校建設事業費が含まれていました。

議第4号、議第8号について、7名の議員が27日午前中まで議会事務に通告があった事が、27日の午後1時30分からの議会運営委員に報告されました。

討論には時間制限が無いために公務優先のため例会を欠席しました。

10月1日(土) 少し寒い日でしたが、午前9時から、今年4月三条市中野原地内にオープンしたスノーピークキャンプフィールドを会場に、福島県から避難されている子ども達と市内の子ども達の交流イベント「デイキャンプ&ネイチャーゲーム体験」が開催されました。

主催はNPOさんじょうで、後援が三条ロータリークラブ・三条ローターアクトクラブです。三条ロータリークラブからは松永社会委員長他6名が出席しました。

参加者は福島県から避難されている家族、市内家族合せて65名位、手伝いの方15名くらいで80名でした。

広大な会場でデイキャンプに挑戦、講師はボーイスカウト隊長を努める捧裕一郎さんの指導のもと、午前中は子ども達が中心に屋外でテントを設地、包丁を使って野菜を切ってカレー準備、ナタを使って調理用の薪を割って火をおこす事から始めました。

飯ごうでご飯を炊いたり、カレーを作って全員で屋外で大変美味しく昼食を食べました。

今はよい道具があり、焚火の残骸を簡単に後始末が出来、会場を汚すことが有りません。

一番印象に残った事は、子どもは包丁、ナタの使い方、火の付け方など、何でも興味を持って手伝ってくれました。特に昆虫を捕まえるのに広い会場を走り回っていました。5、6歳の男の子が突然泣き出して、バツに噛まれたと目から涙を一杯溢れさせてバツをじっと見つめていました。そのうちバツが逃げ、その子が追いかけてバツを足で潰し「バツやっつけたよ」と目に一杯の涙を流しながら得意げに話していた事が印象的でした。

午後からは全員ネイチャーゲームを楽しみ、午後4時散会しました。

翌朝10月2日の三條新聞の記事。

三条ロータリークラブ後援にも関わらず、私のコメントとして

- ①青少年健全育成のイベント『デイキャンプ&ネイチャーゲーム体験』
- ②子どもたちと一緒にうれしそうな山田富義会長
- ③自然の中で遊ぶ大切さを体験してくれたと思います、とありました。

松永社会奉仕委員長、会員皆様一日御苦勞様でした。

幹事報告

小出子恵出 幹事

◎見附RCより「第4分区IM 開催御礼」

◎地区ライラ委員会より
「第11回ライラ研修会 出席御礼」

◎2010-11年度 地区資金委員長より
「2010-11年度 決算書 (案)」

◎石本ガバナー事務所より
「RI第2560地区・クラブ会長会のご案内」
日 時 10月29日(土)～30日(日) 一泊二日
会 場 わか竹 (田上町)

◎石本ガバナー事務所より
「第24回全国ローターアクト研修会 仮登録のご案内」
開催日 2012年 3月10日(土)～11日(日)
開催地 朱鷺メッセ/ANAクラウンプラザホテル
研修会テーマ
「共栄～共に学び、共に感じ、共に栄える～」
仮登録締切日 11月10日(木)必着

ニコニコBOX

鈴木國彦さん (三条南RC)

8月28日、チャリティイベント無事終了致しました。山田会長様と三条RC会員の皆様の御協力に感謝申し上げます。

山田富義さん

先週の例会、急な欠席で御迷惑と御心配をお掛けしました。

成田さん、赤坂君、卓話ありがとうございます。

成田秀雄さん

今年のRYLAについて話します。よろしくお願ひします。

赤坂君ご苦勞様です。

川瀬康裕さん

中学校の同級会がありました。

松永一義さん

10月1日、スノーピークさんでの社会奉仕事業、会長はじめ、お手伝いの会員の皆さん、ありがとうございました。参加者の皆さんから、楽しかったと、感謝されました。

明田川賢さん

成田さん、赤坂さん卓話ご苦勞様です。

松永さん、10月1日のキャンプ、お疲れ様でした。

樺山 仁さん

めっきり秋です。気温の差が大きく、身体の調子が大変です。

成田山、赤坂さんの研修の報告、よろしくお願ひ致します。

五十嵐晋三さん

成田さん、卓話ご苦勞様です。

めっきり寒くなりました。皆様ご自愛ください。

菊池 渉さん

寒くなりました。あんなに暑かったのに―、又冬物のズボンがきつい! どうしましょう…成田さん!

荻根澤隆雄さん

10月2~3日と上高地と黒四アルペンルート行ってきました。天候に恵まれ、大変に良かったです。

成田さん、ご苦労様です。

小出子恵出さん、熊倉昌平さん、 船越正夫さん

歸山 肇さん、 渡辺良一さん、 若槻八十彦さん

会田二郎さん、 木村文夫さん、 五十嵐昭一さん

金子俊郎さん

成田会員、赤坂さん、本日は卓話ご苦労様です。

お話し楽しみにしております。

10月5日分 ￥25,000

今年度累計 ￥413,000

卓 話

「第11回 ライラ研修報告」

新世代奉仕委員長 成田秀雄 会員



博覧 成田 秀雄

今月1日、2日と第11回RYLAがニューグリーンピア津南で開催されました。

三条RCからは私、三条RACからは斎藤会長、赤坂幹事、武藤君の3名が参加いたしました。私自身は巻の青少年研修センター、五頭連峰少年自然の家、新潟のSTEP、敬和学園と今回5回目の参加です。

RYLAはRotary Youth Leadership Awards、訳しますとロータリー青少年指導者養成プログラムとなり、頭文字をとってRYLAといいます。恥ずかしながら三条ロータリークラブに入会して、数年間、実際には初めてRYLA研修に参加するまで、RYLAの意味を知りませんでした。また、RYLAに参加するのはローターアクトのメンバーだけだと勘違いしておりました。実際にはローターアクトのメンバーはもちろん、各クラブより多くの若者が推薦されRYLAに参加しています。今回の研修にはロータリアン、研修生合わせて175名が参加いたしました。

今回は「土と親しむ」をテーマに、魚沼産コシヒカリの本場で開催されました。実際に稲刈り、はざかけを体験し、龍源寺での座禅、講話、また研修室でグループディスカッションなどを通じ、生きていくうえで大切なものを学ぶ研修として企画されました。

8:45登録開始、9:45から開校式が行われました。オリエンテーション終了後、10:30より11:50まで1時間20分にわたり「日本の食と農を考える」のテーマのもと、佐藤準二先生の基調講演が行われました。

佐藤準二先生は加茂市出身の農政ジャーナリストで、現在新発田市にお住まいです。1969年新潟日報入社、編集委員、論説副委員長を経て、2007年退職、著書に岩波書店刊「コメ王国の針路」「ムラは語る」、潮出版刊「コメを考える」等多数あります。現在新潟県の「水田経営安定化・フル活用モデル事業検討委員会」委員でいらっしゃいます。

佐藤先生は「日本の食と農が危うい。日本の食が日本の土から離れ、多くの農産物を外国に依存するひ弱な国になっただけではない。福島第一原発事故による放射能汚染で、肝心かなめの食の安心、安全が足元から揺らぎだす事態に追い込まれた。このままでは日本の食と農の未来は開けない。問題の環太平洋連携協定、TPPに突き進めば、その未来はますます危うくなる。問われているのは日本の生き方にほかならない。その生き方を考える一歩は、土に親しみ、土に感謝することから始まる」と熱く語りかけました。

また「私たちの命を支える食物は、グローバルからローカルへの取り組みが大切であり「地産地消」は日本の食を考えるキーワードです。日本の食料自給率は39%であり、第1位のカナダは140%、アメリカは120%、同じ島国のイギリスでも70%と日本は異常ともいえる低さです。経済グローバル化、農産物自由化が追い打ちをかけ安い輸入農産物と輸入飼料がどっと入ってきて、加速度的に食物の「遠産遠消」が進んでいきました。日本の土から離れる日本の食。「ひ弱な飽食国家」のままでよいのか。「土に生きる者は飢えず、土を護る者は滅びず」との言葉があります。今こそ「日本の母屋」である農村を大切に、自国の食料を可能な限り自国で賄って「豊食国家」を目指す必要がある。」と述べられました。

確かに現在スーパーマーケットなどに買い物に行きますと、外国産の豚肉、牛肉が日本のものより多く場所を占めています。野菜も中国産のものがかなり多くなっており、加工された食品の原料はほとんど外国産です。また配合飼料などもほとんど輸入品と聞きます。ただ地元の顔が見える産品も意識して並べられており、地産地消の大切さを認識している方も増えてきたのかなと思います。

この後、実際に研修生として参加した赤坂君より研修の詳細について話していただきますが、その前に来年からのRYLAでは是非考えていただきたい事がありますので、お話いたします。

昨年の敬和学園でもそうでしたが、RYLAは完全に研修生のための研修となり、ロータリアンは全く参観者としての参加でした。オリエンテーションのパンフにも記載がありますが、基調講演以降の研修、たとえばグループ内自己紹介では「ロータリアンは参観できます」とあります。また農業実習体験（稲刈り、はざかけ）では「ロータリアンは参加できま

せんが、参観はできます」とあります。おまけに移動のマイクロバスには乗せてもらえず、自分の車で研修場所（田んぼ）へ移動するのですが、「駐車場所がないので気をつけてください」との記載があります。翌日の午前は座禅ですが、「大変申し訳ございませんが会場の広さの関係でロータリアンの参加はできません」とあります。ロータリアンが研修に参加せず参観の立場であることに異議は唱えませんが、今回参加した他クラブのロータリアンで、「RYLA募集のパンフに「稲刈り、はざかけ」とあったのでしっかりその準備をしてきた、もし参加しないのであれば、ロータリアンは参観になりますとか事前連絡が欲しかった」との話がありました。数年前の「五頭連峰少年自然の家」の時はロータリアンも一緒に研修に参加し一緒に山登りなどしたのですが、具合が悪くなった方などいて、体力的に30歳前の若者と一緒の行動は難しいと思います。ただ研修生が研修から帰ってくるのを待つだけというのも如何と思います。

ロータリアンの立場からの苦言を少しお話いたしました。研修生にとっては雨の中の農作業、白熱したディスカッション、1時間にわたる座禅と講話など大変厳しくも有意義な研修であったと思います。その体験をこれから三条ローターアクトクラブの赤坂君に話していただきます。

三条ローターアクトクラブ幹事 赤坂広太郎さん



三条ローターアクトクラブの赤坂です。

10/1・2に行なわれたライラ研修会について報告いたします。

三条RACからは私と会長の斎藤智子、武藤雅俊の三名で参加しました。今年は女性が会長ということ

で、彼女の出席を期待された方もいらっしまったかもしれませんが、残念ながら私が報告いたします。

第11回ライラ研修会、今回は「土と親しむ」というテーマで、ニューグリーンピア津南をメイン会場にして、ホストクラブは津南RCで、コ・ホストクラブに十日町、十日町北、雪国魚沼、糸魚川中央、柏崎RCの方々によって行なわれました。研修会への参加者は80名程で、8つのグループに分かれて二日間を共に過ごしました。

一日目は開講式のあとに、基調講演、自己紹介、農業実習体験というスケジュールでした。基調講演は「日本の食と農を考える」というテーマで 農政ジャーナリスト 佐藤準二様に講演いただきました。話の主幹は、日本の食糧自給率は40%と低く、世界

的食糧危機が将来やって来るから、日本は食料自給率を高めて備えなければならない。日本の農業は弱く、保護しなければ崩壊してしまう。そのためにどうすればいいか、というものでした。地産地消を例に、私達はどのようにしていけばいいのか、と様々なお話をさせていただきました。

しかし、必ずしも正しいとは思いません。日本の食糧自給率は40%と低く、世界的食糧危機が将来やって来るから、というお話の出発点は間違っています。まず、日本の食料自給率は決して低くありません。農水省は「40%」という自給率を取り上げて、先進国の中で最低水準だと喧伝していますが、これはカロリーベースの数字であって、生産高ベースで見れば66%と他の国に見劣りしません。

カロリーベースの場合は輸入した食物のカロリーも分母に含まれていますので、この40%と低い数値になります。実は40%というカロリーベースの数字自体も、できるだけ低く見せようとする農水省によって操作されたものであり、そもそもカロリーベースという指標を国策に使っているのは世界で日本だけのようです。

また、日本の農業生産額は約8兆円で、世界5位。日本はれっきとした農業大国であり、日本の農業は世界有数の高い実力を持ち、食料の増産に成功しています。

食料自給率という言葉が一人歩きしていますが、農林水産省がでっちあげた大嘘、インチキです。農水省が国民を欺いてきた理由を一言で言うと、組織と役人の自己保身のため、ということになる。「窮乏する農家、飢える国民」のイメージを演出し続けることで、省や天下り先の利益を確保し、農水省予算の維持、拡大を図っているのです。

私はこの食料自給率がまやかしであると農業マンガで知りました。今お話したことは「食料自給率40%は大嘘！どうする農水省」という本に載っており、鶴岡弘之さんの著書として去年発行されています。ちなみにこの本を出す前に、「文藝春秋」（2009年1月号）に、この本のサマリーに当たる「食料自給率のインチキ」という小論を書いたそうです。そうしたら当時の農林水産大臣の石破（茂）さんが怒って、課長クラスの人から文藝春秋の編集部抗議がありました。

「訂正しろ」「反論の論文を掲載させろ」ということで、20項目ぐらいの質問状が来たので鶴岡さんが全部に答えたら、「今回の話はなかったことにしてください」と抗議を引っ込めたそうですので、かなり信頼できる内容だと思います。

基調講演の内容が結論有りきであったことに少し

疑問を持ちましたので、少し時間を割いて脱線させていただきます。

基調講演のあとは自己紹介の時間で、グループが打ち解けたあとは、稲刈り、はざかけの農業体験をしてきました。この日は朝から雨が降っており、農業体験は中止にするか、という声も多数あったようですが、ライラ実行委員長の絶対にやる、という強い意志が天にも通じたのか昼すぎから雨が上がり、農業体験を行なうことができました。

ロータリアン様所有の田んぼに移動して鎌を使っての稲刈り、刈った稲を結び、はざかけする、ことを体験しました。私は全て初体験でして、指導に当たられたシルバー人材センターの方から「覚えが悪いねー」と笑いながら優しく教えていただきました。農業に従事されている方々で、鎌で稲刈りをするのは60代から70代の方に多いそうで、それ以下の年齢になるともう機械で稲刈りをしてしまうそうです。実際に体験してみて、うん、これは機械を使いたくなるな、と大変さを思い知りました。また当たり前な事ですが、刈っている最中は一本の稲穂であっても見落とさないようになってきます。稲穂が落ちているとそこが目立って見えるような錯覚に陥る体験をしました。子供の頃、茶碗に米粒を残さないように躡けられました。このような体験をしていれば当たりの躡けだと分かります。お米の大切さを改めて思い出す機会になりました。

翌日は龍源寺様に移動しての坐禅を体験しました。曹洞宗のお寺様です。私は坐禅について甘いイメージを持っていましたので、寝たら警策をいただくのかな、と考えていました。しかし坐禅とは修行の一環であり、自己を見つめなおす修行なのだと思い知りました。坐布といわれる坐禅用のクッションに座り、自分の中心を保ちます。私は修行が足りないせいか意識していないと体勢が崩れそうになり、睡魔に襲われることは全くありませんでした。半眼で静かな

気持ちでどこを見てもなく見ていると、頭がスッキリしてきて考え事がまとまる時間でした。

坐禅中にも住職様から講話をいただきました。喜びを喜ぶという言葉をよく覚えています。他者に喜んでもらうことを自分の喜びとする教えです。自分に置き換えてみると私事ならば自分の喜びにできるのかとも思いましたが、仕事となるとまだまだその境地に達していないと反省しました。修行が足りません。本来坐禅は線香が燃え尽きるまでの約40分間行なうようなのですが、今回は30分で終了しました。ただその30分もあつという間で、もっと時間が欲しいと感じるくらいでした。

午後からはホテルに戻りグループディスカッションの時間で、各グループでテーマを選んでの討論、その内容の発表をしました。私達の班は、次の世代に今の環境を残すにはどうしたらいいか、をテーマに選びました。今できること、今はできないけれどできたらいいな、という夢に近いアイデアを話しあって発表しました。短い時間ながら話がまとまり、後のプレゼンテーションでは2位に入ることができました。

ライラ研修会を終えて感じたことは、農業について考えるのならば、役所から与えられたイメージに惑わされることなく自分たちで問題の根幹を掴みたいと思いました。若い人たち後継者が少ないという現実も紛れも無い事実です。食料自給率40%、このままではマズイ、と言われて誰が農業に就きたいと考えるのでしょうか。むしろ日本の農業の優れた点を広めていけば事態が好転すると思います。ぜひロータリアンの皆様には食料自給率という言葉に敏感に反応していただいて、日本の農業生産額は約8兆円で、世界5位。日本はれっきとした農業大国であると宣伝していただけたらと思います。

ご清聴ありがとうございました。



2011年10月1日・2日 第11回ライラ研修会 稲刈り体験



2011年10月1日・2日 第11回ライラ研修会 ニュー・グリーンピア津南

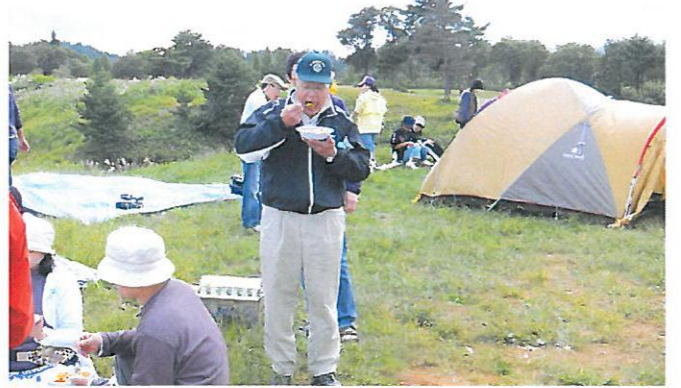
<社会奉仕委員会より>

去る10月1日(土) 午前9時から、スノーピークキャンプフィールドに於いて、青少年健全育成イベント「デイキャンプ&ネイチャーゲーム体験」を行いました。

当日は7名の会員の方々よりご参加いただき、ありがとうございました。

(出席者は週報メイクアップの欄にのせてあります)





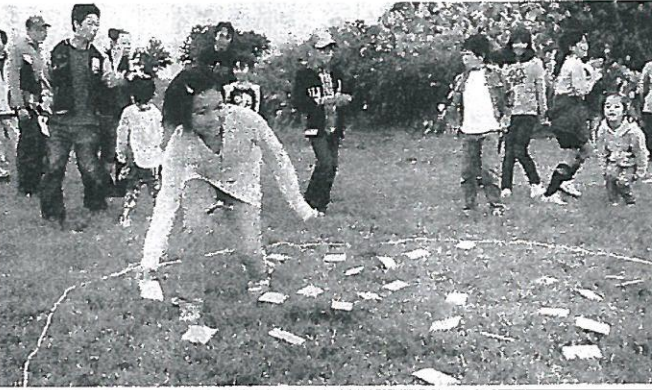
テント張ったりご飯炊いたり

三条ロータリークラブ 福島の小学生たちも

三条ロータリークラブ 青少年育成イベント

三条ロータリークラブ(山田富義会長)による青少年健全育成のイベント「三ツキキャンプ&ネイチャーゲーム体験」が一日午前九時から、三條市中野原のスノーピークキャンプフィールドで開かれた。

カードの下のアトアで動物の正体を探る動物当てクイズ



豊かな自然のなかでさせて六十人ほどが参加。さまざまな活動を体験し、先の震災に伴って福島県(山瀬和敏理事長)の協力を企画したもので、小学生も五人抱き、小学生と幼児、保護者含む。午前中は三ツキキャンプ

に挑戦。ボーイスカウトで隊長を務める榎裕一朗さんを講師に、テントを張ったり、飯を炊いたり、火を焚いたり、具たくさんを炊いたり、具たくさんのカレーを作ったりした。

調理は新(まき)を割り、火を焚くところからスタート。昼食に頂いた「苦労の結晶」は「もつ」といっばい食べたかった。

午後、ネイチャーゲームは、三ツキキャンプの会の鳥羽和明代表が指導した。動物当てクイズでは、「ある動物の特徴」が書かれた四十種類のカードが地面に並べられ、班ごとに一枚ずつカードを取っては、その正体に追った。

子どもたちは大急ぎでカードを取ると、そこに書かれた「枝や草の先の止まるのが好き」といった特徴から正体を推測。「トンボかなあ?」などと相談し合い、答えに近づいていった。

時折小雨がぱらつくあいにくの天気。午後になると肌寒いほどだった。



子どもたちと二階(うれし)な山田会長(中央の帽子の人)

が、アウトドア活動に最適な会場では近郷の山々を三六〇度見渡すことができ、なごめは最高。二オロギやバッタなどの虫を追いかける子どもも多く、福島県の子は「山のキャンプは初めて」とうれしそうに遊んでいた。

三ツキロータリークラブの山田会長(左)は「自然のなかで遊ぶ大切さを体験してくれたと思」と言っていて目を細めていた。

三條新聞 (2011年10月2日掲載)

次週例会 10月19日 **クラブ休会**

次々週例会 10月25日(火)~26日(水)
「職場例会および親睦旅行」

